

2013年5月31日 全5頁

Indicators Update

4月鉱工業生産

足下持ち直し続くも、見通しは慎重

経済調査部
エコノミスト 橋本政彦

[要約]

- 2013年4月の生産指数は、前月比+1.7%となり、市場コンセンサス（同+0.6%）を上回り、5ヶ月連続の上昇となった。生産の持ち直し傾向が続いていることが確認される内容であった。業種別に見ると、輸送用機械工業が、堅調な国内販売と米国向け輸出を背景に前月比+11.8%と大幅に上昇したことが全体を大きく押し上げた。また、スマートフォン向け「モス型半導体集積回路（メモリ）」が増加したことで、電子部品・デバイス工業が先月時点の計画に反して上昇したことも押し上げに寄与した。
- 製造工業生産予測調査によると、2013年5月の生産計画は前月比0.0%、6月は同▲1.4%となっており、先行きに関しては減速を見込む結果となった。このところ堅調に推移している輸送用機械工業が5、6月とも減産を見込んでいることが生産全体を押し下げる見込み。
- 今回の結果では慎重な生産計画が示され、先行きに関して生産の減速が懸念される内容であったが、大和総研では、生産は今後も増加基調が続くとみている。生産が安定的に増加するかどうかは、輸出数量の増加がカギとなるが、昨年末からの円安の効果がラグを伴って本格化することで、輸出数量は増勢を強める見込みであり、生産を牽引するとみられる。また、出荷在庫バランスに改善の動きが見られるように、在庫調整による生産の下押し圧力が解消しつつあることも生産増加にとって好材料である。

鉱工業生産の概況（季節調整済み前月比、%）

	2012年				2013年			
	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月
鉱工業生産	▲4.1	1.6	▲1.4	2.4	0.3	0.6	0.9	1.7
コンセンサス								0.6
DIR予想								0.5
生産者出荷	▲4.3	▲0.1	▲0.8	4.0	▲0.3	1.4	1.2	1.1
生産者在庫	▲0.9	▲0.1	▲1.2	▲1.2	▲0.4	▲2.0	0.2	0.6
生産者在庫率	4.2	▲2.1	▲0.3	▲0.6	▲3.2	▲1.1	▲1.2	0.5

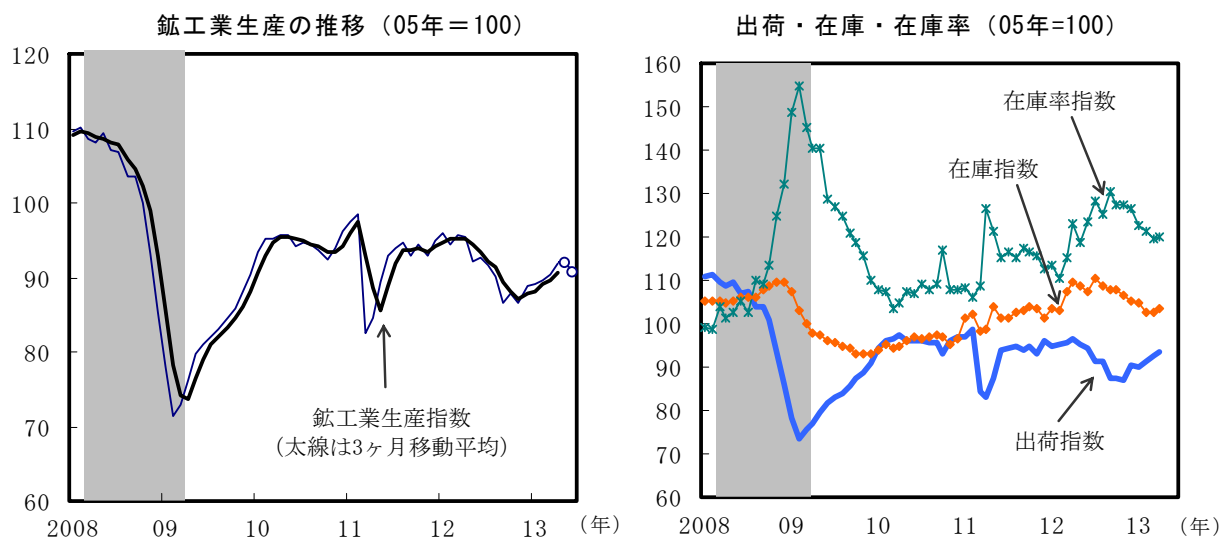
(注) コンセンサスはBloomberg。

(出所) 経済産業省、Bloombergより大和総研作成

生産指数は5ヶ月連続の増加

2013年4月の生産指数は、前月比+1.7%となり、市場コンセンサス（同+0.6%）を上回り、5ヶ月連続の上昇となった。生産の持ち直し傾向が続いていることが確認される内容であった。出荷指数は前月比+1.1%と3ヶ月連続で上昇したものの、在庫指数が同+0.6%と上昇したことから、在庫率指数は同+0.5%と7ヶ月ぶりの上昇（悪化）となった。

生産・出荷・在庫の推移（季節調整値）



(注1) 生産指数の直近2ヶ月の値は、製造工業予測指数による。

(注2) シャドローは景気後退期。

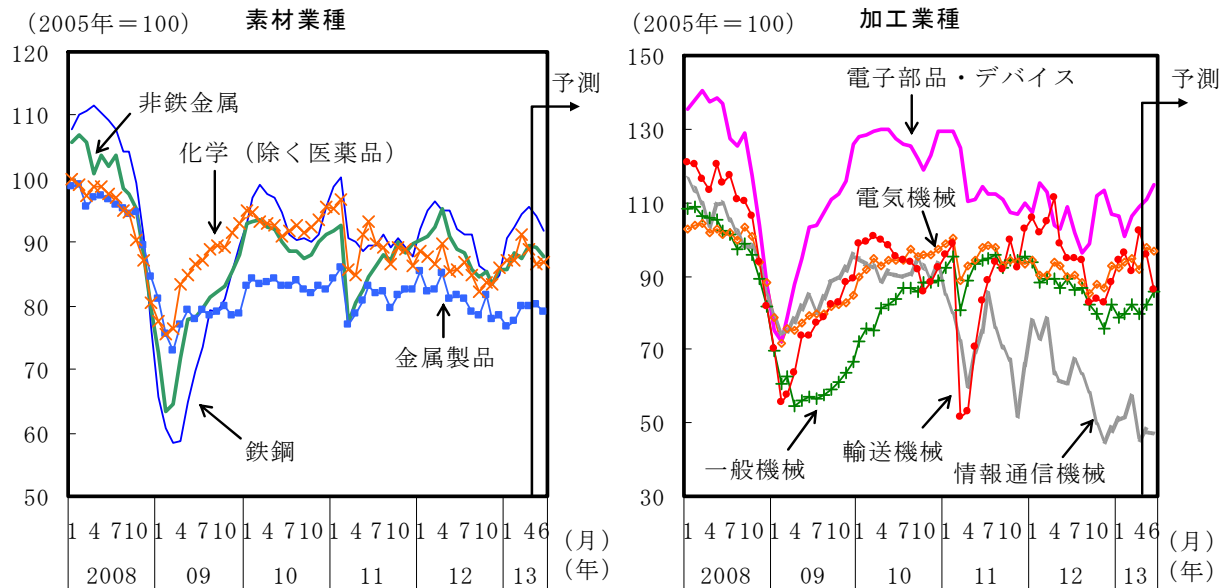
(出所) 経済産業省統計より大和総研作成

4月は輸送用機械工業の大幅増加押し上げ

4月の生産を業種別に見ると、輸送用機械工業が、堅調な国内販売と米国向け輸出を背景に前月比+11.8%と大幅に上昇したことが全体を大きく押し上げた。また、スマートフォン向け「モス型半導体集積回路（メモリ）」が増加したことで、電子部品・デバイス工業が先月時点の計画に反して上昇したことも押し上げに寄与した。素材業種に関しては、先月時点では総じて弱気の生産計画となっていたが、化学工業以外では前月から上昇しており、底堅い結果であった。一方、先月時点で大幅な減産を見込んでいた情報通信機械工業は、「ノート型パソコン」の減少により、前月比▲20.5%と計画通りの大幅な低下となり全体を押し下げた。

製造工業生産予測調査によると、2013年5月の生産計画は前月比0.0%、6月は同▲1.4%となっており、先行きに関しては減速を見込む結果となった。業種別に見ると、鉄鋼業、非鉄金属工業が2ヶ月連続の減産を見込むなど、素材業種の計画が保守的となっている。一方、加工業種に関しては、振れを伴いつつも全般的には持ち直しを見込んでいるが、このところ堅調に推移している輸送用機械工業が5、6月とも減産を見込んでいることが生産全体を押し下げる見込み。なお、5、6月の生産が予測調査通りの結果となった場合、4-6月期の生産は前期比+2.0%と、2四半期連続の増加となる。

主要業種の生産推移

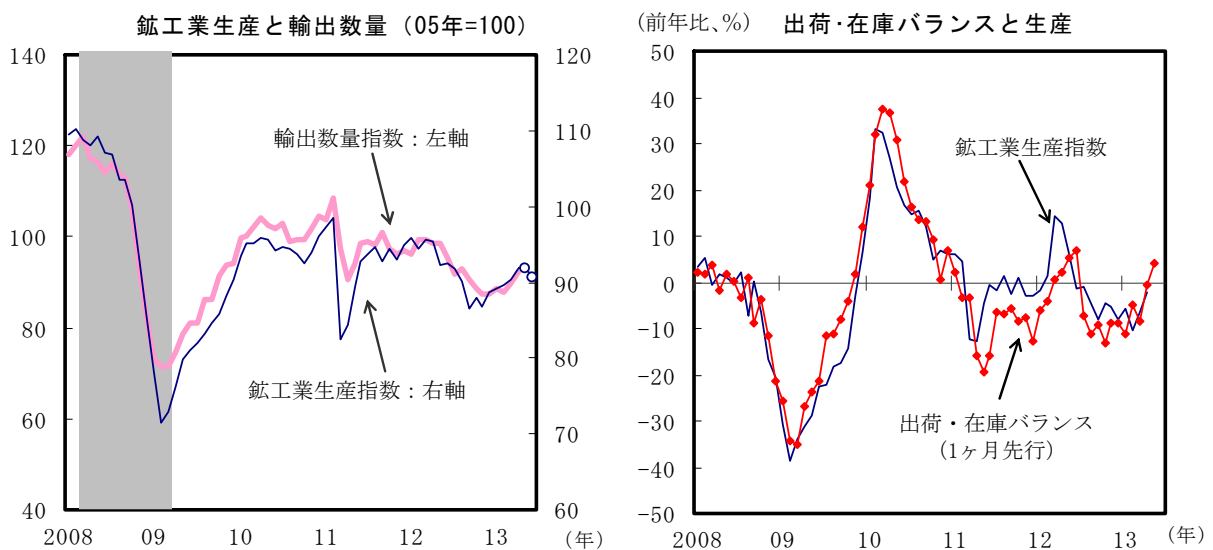


(注) 直近2ヶ月の値は、製造工業生産予測調査による。
(出所) 経済産業省統計より大和総研作成

生産は輸出の増加に牽引されて増加傾向が続く見通し

今回の結果では慎重な生産計画が示され、先行きに関して生産の減速が懸念される内容であったが、大和総研では、生産は今後も増加基調が続くとみている。生産が安定的に増加するかどうかは、輸出数量の増加がカギとなるが、昨年末からの円安の効果がラグを伴って本格化することで、輸出数量は増勢を強める見込みであり、生産を牽引するとみられる。また、出荷在庫バランスに改善の動きが見られるように、在庫調整による生産の下押し圧力が解消しつつあることも生産増加にとって好材料である。

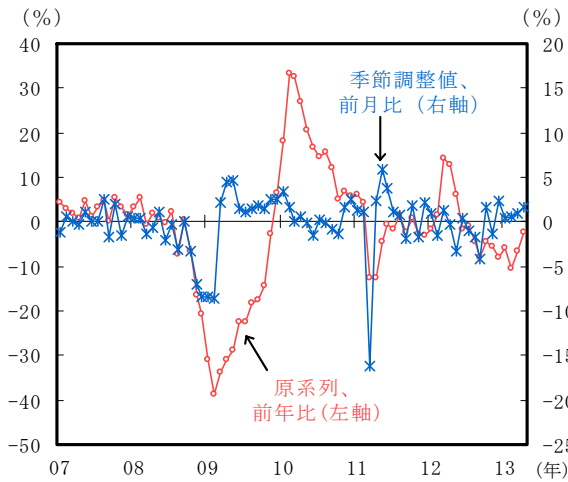
輸出数量、出荷・在庫バランスと生産



(注1) 生産指数の直近2ヶ月の値は、製造工業予測指数による。
(注2) シャドローは景気後退期。
(出所) 経済産業省、内閣府統計より大和総研作成

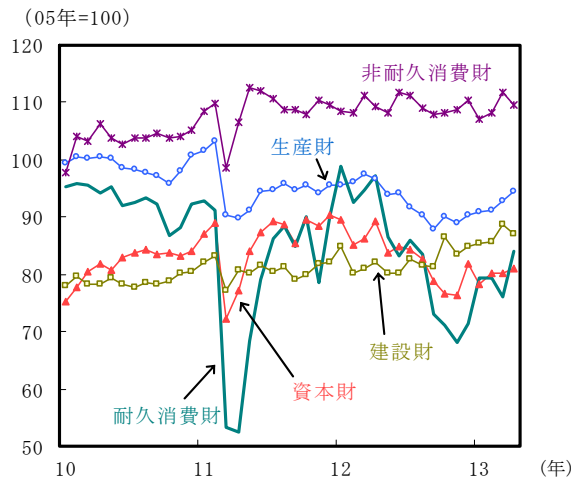
概況

鉱工業生産指数の変化率

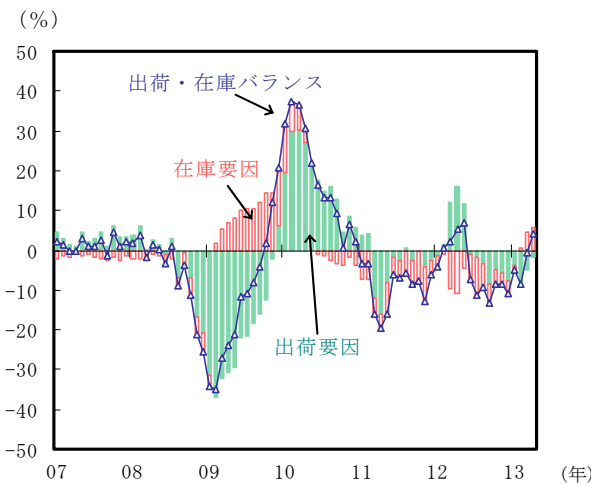


(出所) 経済産業省統計より大和総研作成

財別の生産指数(季節調整値)

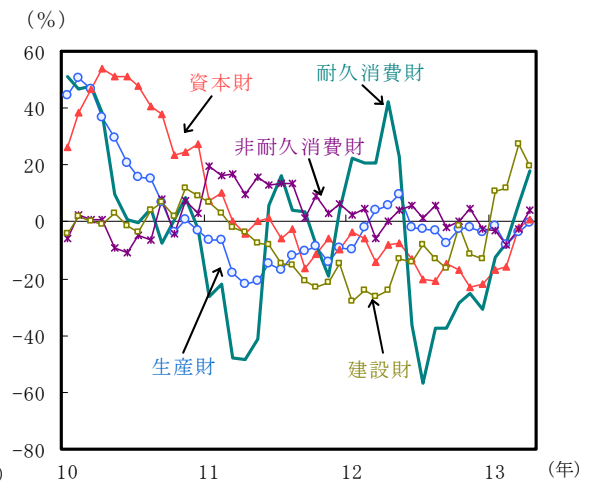


鉱工業生産指数の出荷・在庫バランス

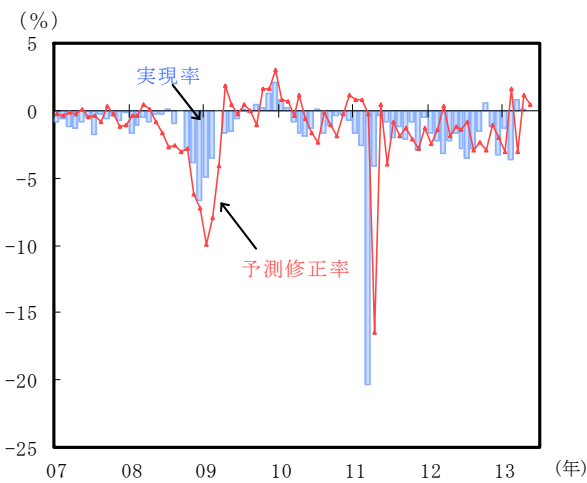


(出所) 経済産業省統計より大和総研作成

財別の出荷・在庫バランス

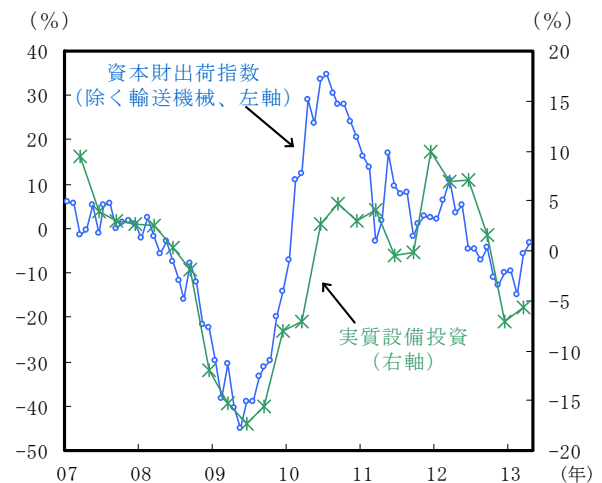


予測修正率と実現率



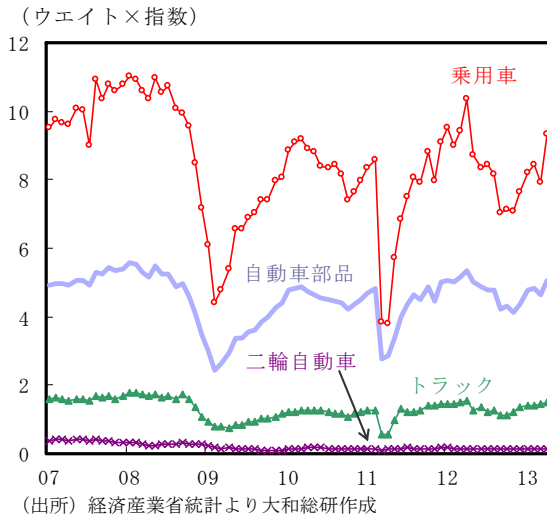
(出所) 経済産業省、内閣府統計より大和総研作成

資本財出荷[除く輸送機械]と設備投資(前年比)

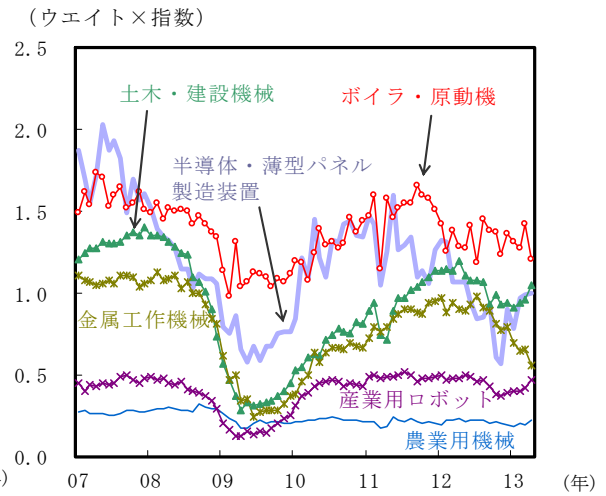


主要産業の生産動向(季節調整値)

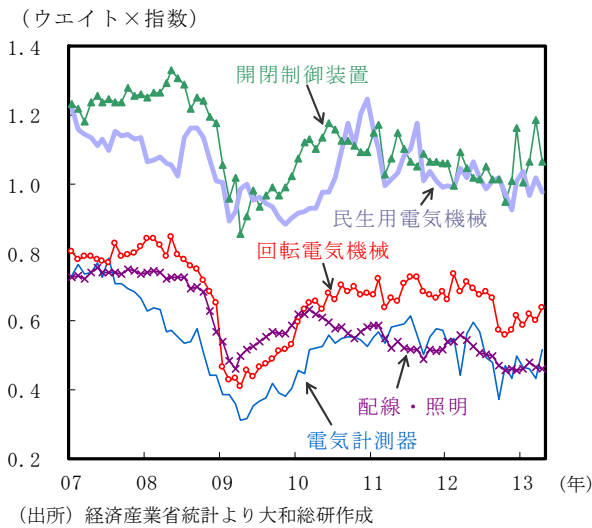
輸送機械



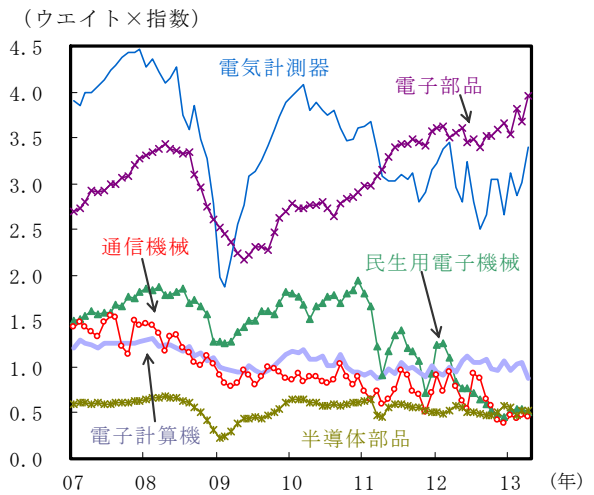
一般機械



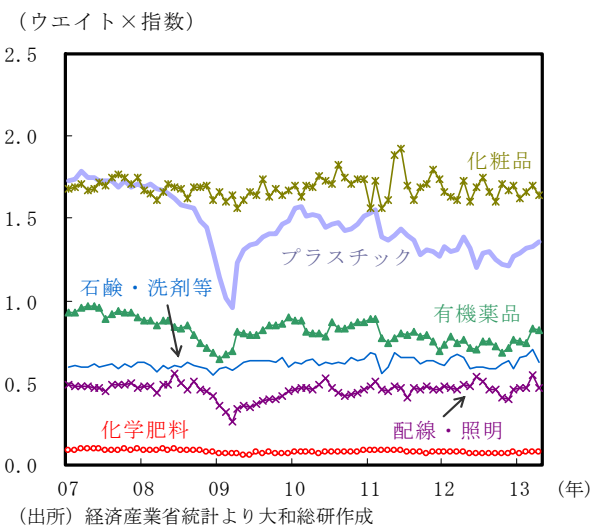
電気機械



電子部品・デバイス・情報通信



化学



鉄鋼・非鉄・金属

